

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01536

研究課題名（和文）ケインズのパーク受容に関する研究：パーク解釈史とイギリス保守主義史に焦点を当てて

研究課題名（英文）A Study of Keynes's Reception of Burke: Focusing on the History of Burke's Interpretation and the History of British Conservatism

研究代表者

中澤 信彦（Nakazawa, Nobuhiko）

関西大学・経済学部・教授

研究者番号：40309208

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究期間全体を通じて、哲学（美学）、貧困観・労働者教育観、帝国（特にアイルランドとインド）観という3つのトピックを焦点として、パークの思想のケインズへの影響の詳細を明らかにしようと努めた。最終的に英語論文・日本語論文・国際会議での口頭発表のすべてにおいて、当初の期待以上の分量の研究成果を生み出すことができた。研究課題である「ケインズのパーク受容」それ自体に関しては、明確な結論を引き出すことはできなかったが、研究開始時よりは知見を大いに深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ケインズが規則主義者パークを低く評価し、便宜主義者パークを高く評価したことを、経済学方法論の次元にまで遡って明らかにした。また、経済が二次的な役割しか果たさないような世界の到来に関するケインズの希望がそこに反映されていることも明らかにした。さらに、パークの美学思想の経済思想史的意義、マルサスのパーク受容の特質と意義を明らかにするなど、「ケインズのパーク受容」についての考察を今後より深めていくための基礎資料も整備した。

研究成果の概要（英文）：Throughout the entire period of research, this study sought to clarify the details of the influence of Burke's thought on Keynes by focusing on three topics: philosophy (aesthetics), views of poverty and worker education, and views of empire (especially Ireland and India). In the end, I was able to achieve research results that exceeded my initial expectations in all of my English papers, Japanese papers, and oral presentations at international conferences. As for the research topic itself, "Keynes's Acceptance of Burke," there is still much room for further study, but I was able to deepen my knowledge much more than when I started the research.

研究分野：経済学説および経済思想関連

キーワード：ケインズ パーク 保守主義 功利主義 美学 インド

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

20世紀最大の経済学者ケインズ(John Maynard Keynes, 1883-1946)が単なる経済理論家でも単なる政治的実務家でもなかったこと、そして、彼の経済学や経済政策に関する議論の根底に人間や社会や道徳に関する彼独自の哲学的な思索が横たわっていたことは、もはや常識の部に属する。このことは、別の言い方をすると、ケインズの経済学や経済政策についての考え方を適切に理解しようとするならば、彼が人間や社会や道徳をどのように見ていたのかという彼の哲学についての理解が不可欠であることを意味する。本研究課題は、ケインズの経済学・経済政策観を根底から支えている彼の哲学にまでさかのぼって考察することにある。具体的には、彼が「保守主義の父」として知られる政治家・政治哲学者バーク(Edmund Burke, 1729/30-97)の思想をどのように受容したのかに焦点を当てることで、この課題に接近したい。

「ケインズのバーク受容」については、内外ともにそれなりの研究蓄積があるものの、管見の限り、先行研究の大半はバーク研究史に精通していないケインズ研究者によるものであり、とりわけケインズの参照した/しえたバークに関する一次および二次文献の特徴を把握できておらず、「ケインズのバーク受容」の独自性を細部まで明らかにするにいたっていない。したがって、「ケインズのバーク受容」の詳細をバーク解釈史・イギリス保守主義史を踏まえて描き出すとする試みは、内外ともにほとんど例がなく、きわめて野心的な課題である、と言えよう。

2. 研究の目的

ケインズは生涯にわたりバークの思想にきわめて高い関心を示した。しかし、保守党・労働党でなく自由党の熱烈な支持者であったケインズが「保守主義の父」として知られるバークの思想に惹かれ続けた理由は、いまだ十分に解明されておらず、汗牛充棟たるケインズ経済学形成史研究の空白地帯となっている。本研究は、こうした研究状況を受けて、ケインズのバーク思想に対する応答の独自性を19世紀後半から20世紀前半にかけてのイギリス保守主義史・バーク解釈史という歴史的・思想史的コンテクストに照らしつつ明らかにし、それを通じて彼の経済学・経済政策観を根底から支えている人間や社会や道徳に関する哲学的な思索に迫ることを目指す。それによって本研究は、ケインズ研究への貢献(バークを介したケインズ理解の豊饒化)とバーク研究への貢献(ケインズを介したバーク理解の豊饒化)の両方が可能となろう。さらに、自称「保守」政治家があふれかえり「リベラル保守」なる言葉すら耳にする昨今、その意味内容が拡散の一途をたどっている「保守」概念の現代的再定義の可能性についても、本研究は積極的な貢献が可能であると考えている。

3. 研究の方法

本研究課題は当初4年間の研究期間(2018-21年度)を予定していた。1・2年度目は、研究の遂行に必要な文献を収集し読解を進める。ケインズが参照したバークの著作のうち、特に依存度が高いと推察される文献から精査していく。具体的には美学論文『崇高と美』である。すでにある程度予備的な研究を進めていることもあり、1年度目から積極的に国際学会で口頭発表し、助言を得る。また、国内では、応募者と研究領域と関心を近しくする識者が集まっている研究グループである経済学方法論フォーラムに参加し、ケインズの哲学的思索のより精緻な理解のための助言を得る(3・4年度目も同様)。3年度目には、1・2年度目に得られた知見をひとまず整理して、第一次草稿を当該年度末までに完成させる。原稿の完成度を高めるために、親交の深い海外の研究者に助言を積極的に求める。また、保守主義者バークと功利主義者バークとの関係についての最新の知見を、ISUS(国際功利主義学会)での発表を通じて得る。4年度目は本研究の完成年度であり、国際ジャーナルへの投稿を行う。投稿前に世界各国の経済学史研究者が一堂に集う大規模な学会ESHET(欧州経済学史学会)で発表し、原稿の最終チェックを行う。

4. 研究成果

4年間の研究期間の1年度目にあたる2018年度は、執筆途上の論文「政府の「なすべきこと」と「なすべからざること」ケインズはムアとバークから何を学んだのか」(論文集『経済学方法論の多元性』に収録)を完成させるとともに、バークとケインズの哲学的思索をより深い次元で理解するために、両者の美学に関連する文献を収集し読み進めていった。2-4年度目(2019-2021年度)は、バークの哲学(美学)に関して得られた知見を、ひとまず単体で論文化する作業を進めながら、ケインズの哲学に関する先行研究と接続させることを試みた。(本研究課題は当初4年間の研究期間を予定していたが、研究期間の延長を2年連続で申請し認められた。)

延長1年度目にあたる2022年度は、「ケインズのバーク受容」に関して、哲学(美学)に加えて、帝国(特にアイルランド)観・貧困観・労働者教育観などに関しても、検討を進めた。延長2年度目=最終年度にあたる2023年度は、「ケインズのバーク受容」に関して、帝国(特にイン

ド)観を中心に検討を進めた。また、わが国のパーク研究にも大きな貢献のあった水田洋教授が2023年2月に逝去され、その巨大な業績をふりかえる追悼論文を執筆する機会を与えられたため、この仕事も並行して進めた。

本研究は、6年間の研究期間全体を通じて、パークの哲学(美学)、貧困観・労働者教育観、帝国(特にアイルランドとインド)観という3つのトピックを焦点として、従来未開拓であった「ケインズのパーク受容」の歴史的事実に迫ろうとした。史料・資料の制約に阻まれて考察が難航したことに加えて、コロナ禍による海外渡航の制限という誤算や予期せぬ持病悪化などもあって、研究の進捗状況がかなり遅れ気味となり、「ケインズのパーク受容」それ自体に関しては明確な結論を引き出せなかったが、以下に示すように、最終的に当初の期待以上の分量の研究成果を生み出すことができ、研究開始時よりは知見を大いに深めることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 中澤信彦	4. 巻 31
2. 論文標題 マルサス経済学の知性史的文脈 ロックの認識論から『人口論』へ、そして『経済学原理』へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マルサス学会年報	6. 最初と最後の頁 33-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 82
2. 論文標題 Reviewing the Development of Malthus' s Ideas on Educational and Parliamentary Reforms from 1803 to 1806	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique / Political Economy Papers	6. 最初と最後の頁 61-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3917/cep1.082.0061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko and Ozawa, Yoshifumi	4. 巻 80(1)
2. 論文標題 Milton' s Paradise Lost and Malthus' s An Essay on the Principle of Population: A Neglected Intertextuality	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 History of Economics Review	6. 最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10370196.2021.1948734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 30
2. 論文標題 Burke' s Nuanced Praise of Smith' s Theory of Moral Sentiments: The Religious Character of Burke' s Notion of the Sublime in His Philosophical Enquiry	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Burke and His Time	6. 最初と最後の頁 72-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中澤信彦	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 マンチェスター期エンゲルスのマルサス批判 マルクス主義と人口問題との不幸な関係の始まり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学経済論集	6. 最初と最後の頁 215-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00026122	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤信彦	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 人間本性・共感・習俗 バーク『崇高と美の探究』の社会思想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知学院大学経済学研究	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 62.1
2. 論文標題 “ ‘As One of the Swinish Multitude’ : A Note on Malthus's Allusion to Burke's Reflections ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 78-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.62.1_78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 27
2. 論文標題 Reviewing Edmund Burke's Concept of ‘Revolution’ : An Overlooked Aspect of the Burke-Paine Controversy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Burke and His Time	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤信彦	4. 巻 60(2)
2. 論文標題 バーク経済思想研究の最前線 「バークとスミス」はどのように論じられてきたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 102-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.60.2_102	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤信彦・久松太郎	4. 巻 32
2. 論文標題 マルサス『食糧高価論』の公刊とその影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 マルサス学会年報	6. 最初と最後の頁 59-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 84(1)
2. 論文標題 A Personal Tribute to John Pullen (1933-2022)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 History of Economics Review	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10370196.2023.2170540	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko	4. 巻 16
2. 論文標題 Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Revue d'Histoire de la Pensee Economique	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0015	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 中澤信彦・久松太郎・王量亮・藤岡裕大・柯斌曦
2. 発表標題 【資料紹介】新訳マルサス『食糧高価論』
3. 学会等名 マルサス学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakazawa, Nobuhiko and Hisamatsu, Taro
2. 発表標題 T. R. Malthus's Investigation of the Cause of the Present High Price of Provisions (1800) and Amartya Kumar Sen
3. 学会等名 The International Workshop on Classical Political Economy 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 マルサスとロック
3. 学会等名 経済学史学会東北部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 マルサス経済学の知性史的文脈　ロックの認識論から『人口論』へ、そして『経済学原理』へ
3. 学会等名 マルサス学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 人間本性・共感・習俗　　パーク『崇高と美の探究』の社会思想
3. 学会等名 日本イギリス哲学会関東部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 マンチェスター期エンゲルスのマルサス批判　　マルクス主義におけるマルサス批判の始源を探る
3. 学会等名 経済学史学会関西部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 パーク美学思想の経済思想史的含意について
3. 学会等名 経済学史学会第83回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 パーク美学思想の政治・経済思想的含意について
3. 学会等名 日本18世紀学会第41回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 インターネット・AI時代を生きる大学生のための経済学史・思想史教育とは？ 関西大学・沖縄国際大学・小樽商科大学での講義経験からの考察
3. 学会等名 経済学史学会第176回関西支部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakazawa, Nobuhiko
2. 発表標題 'As One of the Swinish Multitude': A Note on Malthus's Allusion to Burke's Reflections
3. 学会等名 32nd Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 バーク美学思想の社会・経済思想史的含意について 人間本性・共感・習俗
3. 学会等名 社会思想史学会第44回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 エドモンド・バークのスマス『道徳感情論』書評をめぐって
3. 学会等名 アダム・スマスの会第202回例会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦, 王量亮
2. 発表標題 サウジーのマルサス批判 「貧民の敵」マルサス像の起点を探る
3. 学会等名 マルサス学会第28回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤信彦, 小沢佳史
2. 発表標題 ミルトン『失楽園』とマルサス『人口論』 間テクスト的読解の試み
3. 学会等名 経済学史学会第125回西南部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakazawa, Nobuhiko and Yoshifumi, Ozawa
2. 発表標題 Milton's Paradise Lost and Malthus's An Essay on the Principle of Population: A Neglected Intertextuality
3. 学会等名 31st Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakazawa, Nobuhiko
2. 発表標題 'As One of the Swinish Multitude': A Note on Malthus's Casual Reference to Burke's Reflections
3. 学会等名 The International Workshop on Classical Monetary Theory 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤信彦, 王量亮
2. 発表標題 サウジーのマルサス批判 「貧民の敵」マルサス像の起点を探る
3. 学会等名 社会思想史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 パーク美学思想の経済思想史的含意について
3. 学会等名 経済学方法論フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakazawa, Nobuhiko
2. 発表標題 Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 経済学誕生以前の経済認識の枠組みはいかなるものであったか ポリュピオス、アウグスティヌス、マキャヴェリ
3. 学会等名 経済学史学会第44回東北部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 「パークとインド」はどのように論じられてきたのか？ 研究史から見えてくるもの
3. 学会等名 第22回保守的自由主義研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中澤信彦
2. 発表標題 マルサスとレーニン
3. 学会等名 第78回経済思想研究会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 中澤信彦, 只腰親和, 佐々木憲介, 原谷直樹, 松本哲人, 上宮智之, 江頭進, 久保真, 廣瀬弘毅, 石田教子, 松井名津	4. 発行年 2018年
2. 出版社 蒼天社出版	5. 総ページ数 356
3. 書名 経済学方法論の多元性 歴史的視点から	

1. 著者名 中澤信彦, 久保真, 松本哲人, 藤村哲史, 若松直幸, 原谷直樹, 佐々木憲介, 石田教子, 中井大介, 上宮智之, 廣瀬弘毅, 江頭進, 只腰親和	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 284
3. 書名 経済学史入門 経済学方法論からのアプローチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------